



いっぺいといっぱく

市長のまちづくりにかける想いを市長の語り口でお伝えします。
市HP「によぜがもん」もぜひご覧ください。

Vol.82 「人は間違えるもの」という前提の上に成り立つ社会

コロナ禍では、大変なことが多いですが、コロナ禍がきっかけで、便利になったことがあるとすれば、オンライン会議があります。私も、先日、スウェーデンに留学中の日本人産婦人科医とオンラインで話す機会があり、国民性の違いについて教えていただきました。

スウェーデンでは、驚くほど日常的に、間違いが起こるそうです。例えば、

- 役所に必要書類をメールで送ったら、「失くしたからまた送って」と言われた。
- 業者に商品を発注後、何度も確認したにも関わらず、注文が通っていなかった。
- ハンバーガー屋では3回に1回は、注文が間違っている。

など、挙げたらきりがなく、間違いを指摘してもあまり謝らないため、留学当初、先生は、物事がスムーズに進むことが、「まず、ない」という状況に、かなりストレスを感じたそうです。

しかし、先生自身が、あるミスをしたとき、それは決して悪いことではないと感じたといいます。それは、先生が、大切な実験材料を、自分のミスでダメにしてしまったときのことです。

先生がボスに対して、「もし、病院だったら、患者さんの害になっていたかもしれない。私には、もう研究を続ける資格はないと思う」と伝えたところ、ボスは「ミスは誰でもするもの。どうしたら起こらないか、みんなで考えよう」と言い、研究室のメンバーも、誰もミスを責めず、「仕方ないよ。別の方法を考えよう」と驚くほどあっさり受け入れてくれたそうです。

先生は、以前から、研究室のメンバーのミスに対する反応が、「甘い」と感じていたそうですが、自分が当事者になったとき、その有り難みが痛いほど分かり、以後、先生もメンバーに対して優しくなれたといいます。

約1年半、スウェーデンで暮らすうちに、こう感じたそうです。

『スウェーデンでは、就職してから大学で学び直す人も少なくなく、何歳からでも新しいことを始められます。スキルアップのための転職は日常茶飯事で、一企業に定年まで勤める日本のシステムは驚きのようです。スウェーデンの社会は、「お互いに間違える」という余白を含んだ上で成り立っていて、たとえ間違えても自己肯定感が揺るがないから、何歳からでもチャレンジできるのだと感じます。その余白がときに、数字の上で、スピードや成長を遅らせる可能性はあると思いますが、私のような欠陥だらけの人間にとっては、生きやすい社会でもあります』

人は、間違えることは当たり前で、どうしたら間違えないようにできるかを考えるスウェーデンに対して、今の日本は、国際的にもその正確さや勤勉さが評価される一方で、無駄や失敗を許さない不寛容な社会でもあります。不寛容な社会は、「助けて」と言えない社会であり、その中で生き辛さを感じている人が、大勢います。

先生の話聞いて、私は、スウェーデンが幸福度が高い国とされる理由の一つが、ここにあると感じました。

西小学校区まちづくり協議会

一緒に「防犯パトロール」しませんか

◆防犯パトロールの体験会を開催します

12月9日(水)19時20分までに

西の根集会所に集合してください(雨天中止)

19時半～1時間程度、グループに分かれて

西小校区内を歩いてパトロールします。

詳しくは、下記までお問合せください。

*防犯コミュニティの活動はスマイルポイント対象です
みなさんの参加お待ちしております。

◆今年度のまち協フェスティバルは中止しました

電話 0561-64-5331 西小校区共生ステーション

Eメール nishi.no.machikyo@gmail.com

市が洞

市が洞小学校
イメージキャラクター



小学校区まちづくり協議会

<http://ichigahora.sakura.ne.jp/> (協議会HP)



■コロナ禍の中での活動報告

3月から始まったコロナ禍は、本協議会の活動も大きく制約してきました。間もなく師走を迎えますので、ここまでの活動状況を報告します。

- ・小学生の農作業実習を手伝うため、さつま芋の植え付けを6月に実施しました。
- ・総会の開催にかわり「書面表決」を7月に実施しました。
- ・子育て関連団体やグループの連絡会を9月に開催しました。
- ・蟹原公園から小学校への通学路の草取り、清掃活動を9月に実施しました。
- ・障がいのある方の交流支援に関する連絡会を11月に開催しました。



長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間
365日受付

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

